

南アフリカ為替週報

2021 年 8 月 26 日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去 1 週間の動き＞

(8 月 19 日～8 月 25 日)

USD/ZAR: 14.9100～15.3950

ZAR/JPY: 7.13～7.36 (参照値)

過去 1 週間の南ア・ランド相場は、急落後、急反発。週を振り返ってほぼ横ばいに終わった。ランド急落の先行は、ドル全面高の一環として始まったものの、5 か月ぶりの 15.0 割れ(対ドル)というテクニカル要因がランド安に弾みをつけたように思われた。ドル全面高は、18 日に公表された米連銀 7 月公開市場委員会議事録が「参加者の大半が年内の金融緩和縮小(テーパリング)開始が適切と判断」といった内容を明らかにしたことがきっかけを与えた。更に、その後通貨市場は円全面高の様相を呈したが、これは、上述テーパリング観測(景気抑制要因)に加え、中国当局による規制強化、アフガニスタン情勢の混乱などが重なり、リスク回避の円高を招いたものと理解された。ランドを含む新興市場通貨全般にとっては、これ(リスク回避)も下押し要因となったことだろう。週明け 23 日以降、ランドは急反発に転じたが、こちらも、新興市場通貨全般の底打ち反発の一環で、特段、ランド側に買い要因が存在したようには思われなかった。15.0 という節目の水準を割り込んだことでひと際下げ足が強まった分、ランド反発も、他の新興市場通貨との比較で急速に進んだ。敢えて指摘するなら、23 日、(17 日以降下押ししていた)南ア国債(10 年物)が買い上げられたことは、ランド反発を促す要因に挙げられたかもしれない。ただ、こちらも、南ア財政や物価動向に特段の新規材料があったと言うよりは、ランド安を受けた値頃感が、9%を優に超える利回りの魅力を一段と高めた結果と思われた。

＜過去 1 週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/24	7:00	失業率	Q2	34.4%	33.2%	32.6%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう 1 週間の見通し＞

(8 月 26 日～9 月 1 日)

USD/ZAR: 14.850～15.250

ZAR/JPY: 7.25～7.45

向こう 1 週間の南ア・ランド相場は、様子見気分の強い膠着の先行から、もう一段のランド下押しを予想。様子を見たいイベントは、26～28 日に予定されるカンザスシティ連銀経済シンポジウム(の 27 日の米連銀パウエル議長講演)。その場で、米連銀がテーパリングに着手する時期に関する示唆が得られることが期待されている。上述、米連銀 7 月公開市場委員会議事録の公表を経て、年内のテーパリング開始の織り込みは 6 割方以上進んだように思われたが、ここにきて(週明け 23 日以降)その思惑がじわじわ後退しつつあるとの声も聞かれた。ただ、そこには、(上述議事録のような)相応の要因があつてと言うよりも、調整的なドル安を受け、単に値動きに対する後講釈として「後退」という見方が示されただけの感も拭えない。6 月央にドットチャート(米連銀理事の政策金利見通し)が 23 年末までの +50b.p. 利上げを示唆して以降、米連銀金融政策を巡る思惑は、パウエル議長が金融緩和の早期縮小期待のけん制を繰り返す一方、地区連銀総裁や理事の一部がそれ(金融緩和と早期縮小観測)をあり、市場が飛びつくという構図を繰り返してきたように思われる。言い方を変えるなら、市場にはドルを買いがっている傾向があるということで、それは、27 日のパウエル議長講演を通過しても変わらないのではなかろうか。ランド軟調を警戒するのは、加えて、南ア側にもランド反発に資する好要因が見当たらないから。ズマ前大統領派の排斥、暴動鎮圧、内閣改造と、ラマポーザ大統領の政権基盤はいよいよ磐石に近付いてきているように見える。しかし、好材料の織り込みは既に一巡してしまった感が強く、もう一段のランド押し上げには、具体的な成果(注)が求められるステージに来ているのではなかろうか。

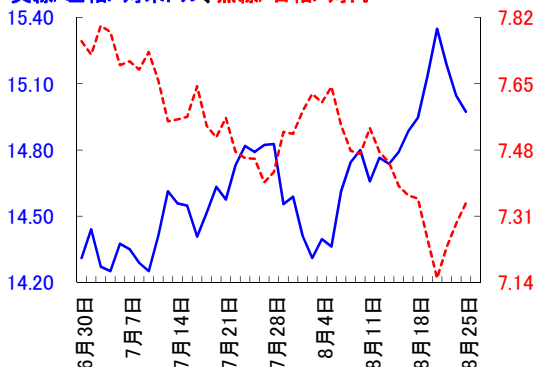
＜向こう 1 週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/26-8/30		鉱業生産(前年比)	6 月		+21.2%	+21.9%
8/30	12:00	財政収支(ZAR)	7 月			+63.1bn
8/31	6:00	民間部門信用(前年比)	7 月			-0.54%
	12:00	貿易収支(ZAR)	7 月			+57.7bn
9/1		自動車販売台数(前年比)	8 月			+1.7%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

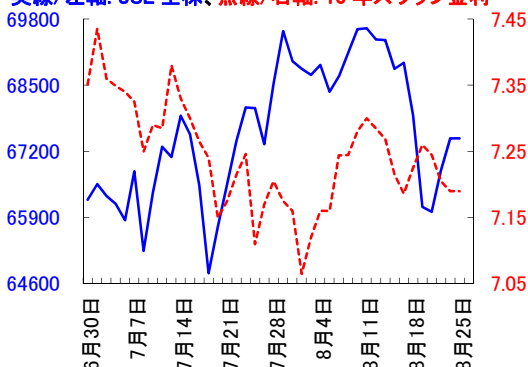
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE 全株、点線/右軸: 10 年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		3.50%
長期金利(10 年スワップ)	8 月 25 日	7.190%
株価指数(JSE 全株)	8 月 25 日	67452.86
成長率(GDP/前年比)	Q1	-3.2%
経常収支(ZAR)	Q1	+267bn
失業率	Q2	34.4%
消費者物価(前年比)	7 月	+4.6%
小売売上高(前年比)	6 月	+10.4%
製造業生産(前年比)	6 月	+12.5%
鉱業生産(前年比)	5 月	+21.9%
貿易収支(ZAR)	6 月	+57.7bn
金価格(ロンドン 17:00)	8 月 25 日	1789.27

(注) 例えば南ア電力公社(Eskom)分社化の進捗、周波数帯入札への外国人投資家参入など、改革の果実として内外に喧伝できる分かり易い出来事

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。